



3本足のスピリチュアル・キャット ヘンリーの世界(前編)

NEWS



「僕の秘密のスポット。ここから、外を眺めるのが好きなんだ」

アメリカに、人々を救い続ける
不思議な魅力を持った3本足の猫がいます。
日々の生き方に悩む人や闘病中の患者まで、
相談のメールは今までに8千通を超えるほど。
その魅力と救われた人々のエピソードを、
前・後編にわたって紹介します。



「窓によじ上るトカゲを見つけて遊んだり、外からの新鮮な匂いをかくのが大好き。そして、みんなからの声を聞くのが僕の日課だよ」



サイコセラピストであるキャッシーさん。ほかに、マネージメントコンサルタント、パブリックスピーカー、ワークショップなど活動は多岐にわたります。

**猫が苦手なふたりと
傷を負った子猫との出会い**

2003年、カリフォルニア州サンディエゴの東にある小さな村ジュリアンで、大規模な森林火災が発生。その村には、サンディエゴで共同生活中のキャッシーさんとドナさんの別宅もありましたが、運良く火の手を免れました。彼女たちは、その別宅を被害にあった人々に提供しようと思いい立ちます。

その後、そこに住むことになった少女から、数匹の子猫を見つけたとの相談が。あまり猫と接しない犬派のふたりでしたが、少女が子猫の面倒を見ることには賛成しました。

ある週末、ふたりが別宅を訪れると、1匹の子猫の姿が見当たりません。やっと見つけたとき、子猫は左足が肩からぶら下がり、今にもちぎれ落ちそうな状態だったので。

「足を切断するしか方法はないでしょう。このまま放っておけば、傷口が悪化して命に関わります。安楽死もひとつの選択ですが……」との獣医師の言葉。こうして、子猫は左足を失ったのです。

**3本足でも元気いっぱい！
猫への“偏見”を拭った純粋さ**

手術後、子猫には住む場所と看病が必要になります。ふたりに、ある不安がよぎりました。家にはスタン



こいやさ、
捕まえた!!



もうひとりのママ、ドナさんは、婦人科のメディカル・ドクター。現在はリタイヤし、フィギュア・スクラブチャー・アーティストとして活躍中。

お気に入りのオモチャでハッスル。
3本足でもこんなに元気!



キャッシーさん、ドナさんと、スタンダード・プードルのドリーがヘンリーの家族。

ダード・プードルの「ドリー」がいます。お転婆な彼女が、もし子猫を傷つけてしまったら? 「猫は嫌い。だって、鳥を殺すから」と言ったキャッシーさんの母親の言葉も頭の隅にありました。それを聞いていたドナさんも、猫は苦手だったのです。悩んだ末、彼女たちはこの子猫を一時的に預かる決心をし、子猫とともに家に戻ってきました。すると、ふたりの心配をよそに、ドリーは快く子猫を受け入れたのです。子猫は、みるみるうちに元気を取り戻していききました。遊び相手のド

リーとじゃれ合い、好奇心も旺盛。ふたりの膝の上に飛び乗っては甘え、ビュアな目でジッと見つめるのです。そんな子猫の無邪気な姿に、彼女たちの猫に対する気持ちも、いつしか変わっていききました。そしてふたりは、男のこらしい名前をと、子猫に「ヘンリーJM(JUST ME)」と名付け、温かく家族に迎え入れたのでした。

ヘンリーの不思議な物語 始まりは一通のメール

純真なヘンリーを見て、キャッシーさんは友人にこんなメールを送りました。

「左足を切断し、一度この世からなくなる運命にあったこの子猫は、何もなかったかのように毎日を楽しんでいきます。そして、私たちを信じてたくさんの愛をくれるのです」
友人からは「犬派の家に猫もいいじゃない」など、たくさんの返信が届きました。するとそのなかに一通、こんなメールが――。

「ヘンリー君へ。君は私のことは知らないだろうけど、じつは私も、サバイバーです」。ヘンリー宛てに送られたこのメールは、同じ3本足の猫「バンキー」からのものでした。このときはまだ、これがヘンリーの魔法の世界へ通じる扉だと、誰ひとりとして知らなかったのです。

(次号後編へ)

夏の特別ふろく メールボックス

キヤッツ Cats



カリフォルニアにゃ〜猫の
メールボックス

Cats
&
People
飯星シンヤ
さん

8
2006
AUGUST
特別定価
780 YEN

※好評連載!

- 🐾 ニヤメール写真館
- 🐾 猫雑貨「和猫もので涼やかに」
- 🐾 こねこのグラビア「ヒマラヤン」
- 🐾 猫種図鑑「エジプシャン・マウ」

特集1

にぎやか猫ライフを応援!

特集2

なぜするの? どう対策?
猫のツメとぎで
悩まない

あったか多頭飼い計画



3本足のスピリチュアル・キャット ヘンリーの世界(後編)

NEWS



ヘンリーのママ、キャッシーさんと一緒に。

CASA DEL PUENTE／ブリッジ・ハウス。ヘンリーの住む敷地内にある、ジェームス・ハベル氏の作品。



ドクター・マムこと、ドナさんが作ったヘンリーのフィギュアスクラブチャー。



傷を負い、3本足になっても
純粹で元気いっぱいの「ヘンリー」。
そんな彼の元に、続々と
さまざまな相談メールが届きます。
そして、ヘンリーとの出会いで
人々は救われていくのです。

「自分の“ベスト”を見つけて生きようよ。Be just me！」

ひたむきに生きるヘンリーの
姿がネットや本で話題に

同じ3本足の猫「バンキー」からのメールがきっかけで、ケガで一度はこの世からなくなる運命だったヘンリーの姿を、メールで多くの人に送信するようになったヘンリーのママ、キャッシーさん。ヘンリーの内面から発する声と生のスピリットは、家族から友だち、さらに人から人へとネット上で広がり始めました。すると今度は、日常の出来事から深刻な相談まで、たくさんさんのメールがヘンリー宛に届くようになったのです。身体にハンディを追いながらも、正直に無邪気に生きるヘンリーの姿が、人々を癒し、希望を与えているようでした。

キャッシーさんとうひとりりのママ、ドナさんは、ヘンリー宛に送られてくるメールから、多くの人々がヘンリーを求め、助けを必要としていることを知りました。そしてのちに、ヘンリーの姿とメッセージ、人々からの声をまとめたメール・オデッセイ(メール通信放浪記)「ヘンリーズ・ワールド」の出版に至ります。

この一冊の本が、助けを必要とする人々や動物のライフサポートの根となり、さまざまな場所でたくさんの方の心をつなげ、徐々にヘンリーの世界がひとつの輪となり広がっていったのです。



肺ガンで亡くなったディー・キンダーさん。
キンダーさんにとって、ヘンリーは、スピリットを分け合った大切な友。



交通事故で片目と歯を数本失くし、2度の大手術で生還した元ホームレスキャットのチャンス。「チャンスにもう一度、生きるチャンスを与えた。そして、僕にもチャンスを与えた。人生を変えてくれたんだ」と、ヘンリーを語るオーナーのブライアン。



ドクター・ジョーとヘンリー。「僕は、ずっと側にいるよ」とコンタクトを遂げたヘンリー。ヘンリーのくれる純真なやさしさに、ドクター・ジョーは励まされると言います。



「WHAT'S THE MATTER WITH HENRY?」
「何が起こったの? ヘンリー君」
ブレイクスルー・プレス発行・出版
19.95ドル(送料別)

初のヘンリーのチルドレン・フォトブック(児童書)。ほかにも多くのヘンリーに関する出版物やグッズが発売されています。詳しくは<http://www.henryworld.org>をご覧ください。

ドクター・ジョーとヘンリー。「僕は、ずっと側にいるよ」とコンタクトを遂げたヘンリー。ヘンリーのくれる純真なやさしさに、ドクター・ジョーは励まされると言います。

ヘンリーとの出会いで救われた、多くの悩める心

ヘンリー関連のグッズや本の売り上げ金は、恵まれない人々や動物に寄付され、それによって救われた事例も多々あります。重病に侵され、会社からはレイオフ、一時はホームレスになり、6匹の愛猫を手放した元セニア・バイオロジスト・ドクターのジョーは、ヘンリーに出会った

ずいた彼女は、愛猫「エミー・ルー」の名を借り、ヘンリーにだけはメールで全てを打ち明けていたそうです。「私の最愛なる友だち。最後にやっとうして会えましたね」。闘病中、ヘンリーと対面し、ともに時間を過ごしたキンダーさん。どんなに辛くても、最後まで強い精神で病氣と闘ったそうです。

人々の魂にふれる、希望への道しるべ的存在、ヘンリー。やさしい光となって周囲を包み、安らぎを与えるスピリチュアル・ヒーラーは、純真な心で私たちに語りかけ続けています。

ヘンリーに届いたメール

「最近の私は、イライラした30代半ばの嫌な女だと愛猫にも思われていたみたい。ヘンリー君、勇気とユーモアをありがとう。アリゾナからたくさんのお愛を送ります」
—ジュエラーより

「2年前に愛娘を亡くした命日である昨日、私は、また自分を見失ってしまいました。でもヘンリー君、

あなたは私を変えてくれました」
—愛娘を亡くした女性より
(この女性は、孤独の世界に閉じこもっていましたが、現在、家族と向き合うようになったそうです)

「きっと、僕とヘンリー君は似た者同士だね。僕たちは、世界でいちばん近い存在じゃないかな」
—重い病に侵された10歳の少年より